

I・HEAP 2021年 7月23日

8章 価値観の本質と歴史教育や歴史学習において価値が重要である理由 (The nature of values and why they matter in the teaching and learning of history)

担当：太宰府市立太宰府西中学校 高松尚平

著者紹介

Deborah Henderson



クィーンズランド工科大学教授

専門領域 カリキュラムや教授学, 教育システム, 職業・専門職教育
研究キーワード

アジアリテラシー (Asia literacy), アジアの言語・文化, シティズンシップ, 批判的思考, 文化間理解, 教育行政, 歴史カリキュラム, 教師教育主著

論文・著書など

・ Henderson, Deborah (2020) Cross-curriculum priorities in the Australian curriculum: Stirring the passions and a work in progress? Curriculum Perspectives, 40(2), pp. 203-214.

・ Henderson, Deborah (2020) Neo-liberalism and configuring global citizenship in higher education: Outbound mobility programs. In Zajda, Joseph (Ed.) Globalisation, Ideology and Neo-Liberal Higher Education Reforms. Springer, Dordrecht, The Netherlands, pp. 81-102.

詳細は https://eprints.qut.edu.au/view/person/Henderson,_Deborah.html を参照

重要語句

- ・ 価値観 (The nature of values)
- ・ 文化的記憶 (Cultural Memory)

議題

社会科(歴史)以外の教科との連携の在り方にはどのようなものが考えられるか?

日本で歴史の語りに内在する価値観を分析することはどうして難しいのか?

➤ 価値観とは何か? (pp.103~104)

- ・ Rokeach (1973) 個人・社会生活において何が重要で望ましいかという永続的な信念
- ・ Halstead and Taylor (2012: 169) 行動の一般的な指針として機能する原則と基本的な信念、特定の行動が良いか望ましいかを判断する基準

⇒ 価値観と態度は感情領域で関連しているが、思考から切り離されているわけではない

- ・ 倫理…個人の価値観や態度, 行動を導く原則, 価値観と行動とのつながりを表現)
(例) 個人が正義を重んじる⇒他者を「公正」に扱うことへのコミットメントが指針となる

➤ オーストラリアの教育において価値観はどのように概念化されているか (p.104)

生徒に学校教育を通じて社会の価値観を教え込めば、人格形成が行われる…教育の前提
人格形成に向けた2つのアプローチ

- ①共有・承認された価値観を伝達
- ②推論や問題解決, 批判的思考の育成

⇒今日のオーストラリア歴史教育では価値判断を行う②のアプローチを重視

歴史の授業では、生徒は特定の価値観の立場の発展や新しい価値観が生まれた際に起こることについて批判的に検討し、生徒自らの価値観の立場を議論し、洗練させることができる

➤ オーストラリア歴史カリキュラムの中で価値観はどのように位置づけられているか

(pp.105~106)

オーストラリアの歴史カリキュラムの中で価値観は過去について考え、推論するために不可欠
過去の出来事についての考え方や推論としての価値観⇒「論争 (Contestation)」「論争性
(contestability)」という概念に包括

歴史は大衆の感情を形成し、公共の議論に頻繁に登場する知識の一形態である。「論争」と「論争性」には、過去を自己と現在に結びつける能力と、歴史に関する専門的かつ公的な議論に適用されるルールを理解することが必要

最新の歴史カリキュラムの中でも、より困難で価値観をはらむ過去について考える機会を提供

歴史の探究は、証拠に基づいて行われ、本質的に解釈的であり、議論を促進し、現在および将来の課題を含む人間の価値について考えることを促すもの(ACARA, 2017)

➤ 歴史の授業で価値観を教える上での課題と可能性とは? (pp.106~108)

史資料には道徳的な語彙が含まれるため価値観を考える際には重要

△課題

- ・生徒が過去の人々の行動や実践に対し、価値判断ができるのか疑問
- ・価値観の葛藤や道徳的問題に着目すると何が起ったのかという点に目が向かなくなる

○可能性

・歴史解釈の価値を含んだ性質を理解することで、過去に関する矛盾した説明に埋め込まれた価値観に批判的に関わる生徒の能力を育成する

☞北部での原住民の白人との接触、ホロコースト、アメリカ南部での奴隷制度、アメリカ大陸の先住民を虐殺したスペイン人のコンキスタドールなど、倫理的な立場に立たない優れた歴史を想像するのは難しいでしょう。私たちは、今日の倫理的問題に直面する際に役立つ何かを過去から学ぶことを期待している (Seixas, 2009)

☞歴史的な事実はある程度の解釈を前提とし、歴史的解釈は道徳的判断を伴う (Carr, 1961)

・加えて、生徒が「歴史の基本的な認識論的および存在論的問題」に積極的に関与することができる生成的なプロセスとしても機能している (Seixas, 2015)

➤ 歴史学で「浮かび上がる」「悩ましい問題」を考える (pp.108~109)

「歴史戦争」や辺境における人々の出会いについての議論を調べる

(例) 19世紀にタスマニアに入植したヨーロッパ人の暴力

レイノルズなどの歴史家

植民地化の過程でオーストラリアの景観は「入植」ではなく「紛争」の場へ変化し、アボリジニの土地の所有を巡る紛争は「戦争」と「抵抗」の両方をもたらす

ウインシュトル

以上のような歴史の解釈は捏造に等しいと主張し、政治的な影響を受けていると主張

保守歴なコメンテーターはウインシュトルの主張を絶賛

⇒多くの歴史家たちは、主張や方法論に疑問を唱える

生徒たちは集合的記憶を刻む歴史の役割を考察したり、国家の歴史が進歩や成功を意味する前提を批判的に問い直したりできる。

➤ 価値観と探究テーマの選択：追悼の義務と文化的記憶 (pp.109~111)

国家の過去において何が最も価値のあるのか

…記憶義務と文化的記憶 (Cultural Memory) と関連

※文化的記憶 (Cultural Memory) とは、多様な記憶の形態と、あらゆる形態の記憶が伴う経験の変容を包摂する用語であり、過去のイメージや物語がコミュニティや国家のメンバーの間で構築され、伝達され、共有され、評価される複数の方法に注目するもの (Nora, 1996)

(例) ガリポリ半島へのアンザック (ANZAC) 上陸作戦 (1915年 4月25日)

第一次世界大戦中、オスマン帝国イスタンブールの占領を目指し、イギリス軍に連合してオーストラリア軍・ニュージーランド軍が参加した半島上陸作戦

半島の地形やトルコ軍の防衛に阻まれ、多くのオーストラリア人の命が失われる。

◎現在、オーストラリアでは4月25日が祝日となっている。

この出来事を後世に伝えることは、オーストラリアにとって重要な問題として捉えられる。

ガリポリ作戦に関して直接記憶をもたない生徒は、

①この出来事について誰の声が含まれ、排除されているのかを分析する

②史資料に歴史家がどのように関わっているかを調査する

①・②を通して、ガリポリに関する歴史的な説明が文化的記憶を参照的かつ創造的なものとして位置付ける物語として批判される方法についても考えたりすることができる。

生徒たちは、戦争や軍事介入に関連するような過去の主要な出来事が、どのように記念され、国家の価値観やアイデンティティを表すものとして選ばれるのかを考えることができる。

○さまざまな政治家の軍事作戦への参加を通じた国の価値や遺産を記念する活動を分析

(例) 第二次世界大戦におけるココダ作戦

昭和 17 年, 日本軍とオーストラリア軍によるニューギニア島東部のポートモレスビーの占領をめぐる展開された戦い。日本軍による占領作戦は失敗し, ニューギニアからは撤退。

○1992年のキーティング首相による演説



このパプアニューギニアで従軍したオーストラリア人は、旧世界ではなく新世界を守るために戦い、死んでいった。彼らは、オーストラリアと、この地で育まれた文明と価値観を守るために死んだのである。だからこそ、オーストラリア人にとってパプアニューギニアでの戦いは、これまでで最も重要なものだったと言えるだろう。

オーストラリアの歴史やアイデンティティにおいて何が重視されているか、重要な歴史の論点を第一次世界大戦から第二次世界大戦へと移すべきかに関する議論を学ぶことができる

ココダ作戦についての議論から太平洋戦争の再評価がすすんでいることを学ぶことができる

➤ 歴史の授業でどのような価値観を学ぶべきか決定する (p.111)

メルボルン宣言では、民主主義・公平性・正義といった価値観を扱うべき

歴史教育において特に重要…生徒が接する様々な価値観の起源と発展を調べることができる

しかし、教室の多様化が進んでいるため、価値観の違いに留意する必要がある

(例) ガリポリ作戦の意義の記念

トルコ系の家系の生徒がいる教室では、ガリポリが現代トルコ発祥の地とみなされている理由を調査

➤ 歴史的探究から生まれる価値観について生徒の歴史的思考を促進する (pp.111~113)

・文脈を理解するスキル⇒価値観について考え、推論するための第一歩

・史資料を分析・解釈したり、出典や作成者を特定したりする問い

⇒資料に埋め込まれた価値観を調査し、過去についての証拠の代表性・信頼性を判断できる

・歴史的探究を通して人権を大切にす意識、歴史意識 (Rusen,2004) の育成につながる

⇒歴史が地域、国境を越え、公的・私的に関わらず様々なレベル機能していることを理解できる

(例) ナチス政権に反対したドイツ人、公民権運動家、サフラジェットなど国家的価値に抵抗を必要とする歴史的局面

・自分の知識に基づいて行動を起こすための計画を立てさせる

⇒特定の価値に対する認識を深めることから得られる重要な成果

➤ 結論 (pp.113~114)

歴史の授業で価値観を教えるアプローチ

・生徒が過去と現在の他者の価値観や視点に対応する

・現在と将来の自分の学習や生活に歴史的な手法を適用することを評価する手段となる